

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設当初からの理念について、職員全員で再度話し合い地域の中で暮らしている事を根幹に「住み慣れた地域で明るく笑顔の絶えないホーム作りを目指す」と理念を掲げケアに取り組んでいます。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員は、ご利用者に対してのケアがぶれないように常に運営理念を意識し日々の業務に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>事業所は地域との交流を積み重ねていく事で、ご家族や地域の方々に理念を浸透出来ると考えている。また、毎月のホーム便り等で活動の状況をご家族に報告している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩時に近隣の方々と挨拶を交わしたり、畑で出来た野菜やお米を頂く、野菜や稲の作り方を教わるなど日常のお付き合いができるように努めています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>法人で季節の行事(花見会、盆踊り大会、敬老会、運動会、餅つき大会)に地区の老人会の参加があり、事業所としては紙芝居を持参し保育所との交流会や地区の食事会で披露する等の交流を図っています。また、デイサービスとの交流の機会を以前より増やし、ご利用者が地元の方々とふれあえる機会を持てるように努めています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の食事会に参加し、事業所の取り組みをお話させて頂き、少しでも在宅での認知症予防・認知症介護にあたられたい方々に参考にして頂ければと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は昨年の外部評価結果について運営推進会議やご家族様から頂いた意見を参考にし何度も話し合いを重ね、その内容や意義を理解した上で自己評価の作成を行い、処遇の改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での日々の活動や状況の報告を行い、参加メンバーから頂いた意見や情報を参考にし職員間で話し合い、積極的に取り組むことでサービスの質の向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市町村との連絡、情報交換、相談等(疑問点などを問い合わせる)を行い、お互いに情報を共有しサービスの質の向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修計画に基づき継続的に職員が研修を行うことで、理解を深めるよう努力しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修計画に基づき継続的に職員が研修を行うことで、理解を深めるよう努力しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金、起こりうるリスク、退去の要件等をご家族とご本人に説明を行い、ご理解・納得して頂けるように努めています。介護報酬の改定に伴う利用料金の変更時は、ご家族様に個別に説明させて頂き相談に応じています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、入居契約時にも説明を行っています。職員が受けた苦情、相談についても報告、連絡する体制があります。定期的に行っているお客様との給食会議等、お客様の意見や要望を言いやすい機会を設け、運営に反映させています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、翌月の行事予定とご利用者の様子や活動がわかるホーム便り、金銭管理表・行事・運営推進会議へのお誘いの連絡等を送付しています。遠方におられるご家族様で面会の回数が少ない方に対して、個別に毎日の暮らしの様子やバイタルチェック表を送付しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフルームのカウンターに御意見箱を設置しています。また、ご家族を行事(食事会・ご利用者の誕生会)や運営推進会議等にお誘いし、気軽にご意見、不満等が言える環境、関係作りに努め可能な限り運営に反映させています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時、処遇会議等で職員の意見や処遇に対する提案を聞く機会を設け検討し、可能な限り反映させています。普段から職員が意見や提案を言いやすい関係、雰囲気作りに努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者やご家族の要望や希望に出来る限り対応出来るように、職員は朝のミーティング時、処遇会議で話し合い勤務の調整に努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体で職員の異動等の管理を行っています。職員の異動時には残った職員が新しい職員をフォローし、ご利用者、ご家族への不安や負担をかけないように配慮しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度による、フィードバック面接時に職員個々に合わせた目標を設定して取り組んでいます。法人・事業所で年間の研修計画を作成し積極的に参加しています。研修で学んだ内容を処遇会議で報告し、職員全員でレベルアップを図っています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員が見学に来られ、日々の取り組み等についてお互いに意見交換し、サービスの質の向上を図っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃からお互いの意見や悩みを気軽に言えるような環境作りに取り組んでいる。法人全体で年2回の親睦会や年1回の職員旅行等、各職員と交流がされています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれ役割・担当を決めて日々の業務に取り組んでいます。年に2回行っている人事考課制度によるフィードバック面接時に目標の達成を共有しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご利用者宅への訪問と施設を見学して頂きます。ご本人が困っている事、不安な事、求めている事等を傾聴し出来る限り受け止める努力をしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご利用者宅への訪問と施設を見学して頂きます。ご本人が困っている事、不安な事、求めている事等を傾聴し出来る限り受け止める努力をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談があった場合は、ご本人やご家族の思いや希望を聞かせて頂き、その時々々の状況・状態に合った必要な支援を提案し、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご利用者宅への訪問と施設を見学して頂きます。見学時には事業所の雰囲気や状況を肌で感じて頂き、入所後も職員はご本人やご家族と話し合いを重ねながら馴染んで頂けるように努力しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご利用者の今までの生活歴を出来る限り把握し、ご利用者が受け身の立場ではなく、その方の経験や力を発揮できる場面を多く作れるよう努力しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時にご利用者の思いや希望・状態等の近況を報告し、ご利用者の誕生会やご家族を交えた食事会で交流を深めご利用者を一緒に支えていく努力をしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時にセンター方式、入所後に自分史を作成し、ご本人の生活歴や家族との関係性を職員は出来る限り把握する事に努め、行事や運営推進会議等へお誘いし、ご本人をご家族と一緒に支えていく関係が築けるように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別処遇として今まで住んでいた地域に出かけ、知人や友人との会話を楽しむなどの支援を行っています。また、暑中見舞いや年賀状のやり取りを行い、これまでの関係を継続していけるように働きかけています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が共同で作業を行う場面作り、ご利用者一人ひとりが得意な事を行って頂き、それを他のお客様に認めて頂ける場面を作れる様、職員は配慮し日々のケアに取り組んでいます		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所を退居された方に、他の事業所に会いに行く。また、そのご家族様との年賀状のやりとりや盆踊り大会等の行事のご案内を送付する等の支援を行い関係を断ち切らない付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との日々の会話や行動、表情等から思いや希望を把握し、それが出来るだけ実現できるように、職員間、ご家族を交えて相談を行っています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報提供頂き、それをセンター方式に落とし込む作業を行い、入所後もより詳しい資料が作れるよう、自分史を作成してこれまでの暮らしの把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はご利用者一人一人の生活のリズムを申し送りノート・個別記録・ご利用者と関わりを持つ事により、現状を総合的に把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者やご家族様と関わりを持つ中で、希望や思い等の情報を収集し、職員間でケアカンファレンスを行い、ご利用者がやりがいを持って安心して生活していくことができるように話し合いを行っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を連動した個別日誌の記載を元に、変化が生じた場合はご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、現状に合ったアセスメント、計画の見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や状態・気付き等を記入し、職員は勤務前に必ず確認し、情報の共有に努めています。また、それを介護計画の見直しに活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の事業所と連携をとりご本人やご家族の要望に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に町職員、民生委員、地域包括支援センター、ご利用者のご家族に参加して頂き、地域の資源を活用できるようにご協力頂いています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のふれあいサロンに参加し、地域の方々と一緒に食事をしたり、保健師主導の下、体操、レクリエーション等を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、経過を報告し、助言・協力を頂いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人、ご家族の希望を伺い、かかりつけ医を決定しています。通院介助もご家族が行けない場合は職員が行い、その結果を報告しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はご利用者を尊重し、状況や場面に応じたさりげない声かけや対応を行っています。また、記録や個人情報の取り扱い、礼儀についても研修を行い漏洩の防止に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員はご利用者の日常の会話や表情から希望をくみとれるよう心がけています。選択肢を多く用意する事で、自己決定の場面を生み出すように心がけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員とご利用者との日頃の会話の中で、どのような毎日を過ごしたいか聞き取り、一人ひとりの生活のペースを大切にしながら、出来る限り希望に添えるように心がけています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の個性を尊重し、洋服選び等もご利用者に行って頂き職員の意見を押し付けない様に配慮しています。外出に合わせて、行きつけのお店を訪れ洋服を買う等も行っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理は職員とご利用者が一緒に行っています。調理を行う中でも、ご利用者一人ひとりの力や状態を職員は把握し、全体の雰囲気作りを大切にしながら楽しんで行っています。不定期ではありますが、ご利用者と一緒にお買い物に出かけ、食材を選んで頂くなどの支援を行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好は自由で、普段から買い物に行った時に好きなお菓子等を買うなど一人一人に合わせた支援を行っています。夕食に晩酌を行うご利用者もいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導時少しでも恥じらいが軽減できるような声かけ・対応を心がけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方の入浴が多いですが、その日の気分、希望に対応しています。ご利用者に合わせた温度調整を行い、温泉浴・檜風呂のどちらかを選んで入浴して頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活のリズムが整えられるように、ご利用者のその日の状態を考慮し活動への参加を促しています。夜間眠れないご利用者に対しては、悩みや相談の傾聴、温かいお茶を飲んで頂く等の支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の今までの活動の様子や生活歴、趣味を記載したセンター方式や自分史を活用し、農作業、園芸、裁縫、手芸等の個々の活動を行っています。また、保育園で紙芝居を披露する事を目標に練習を行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じてお金を所持しています。買い物時は、ご本人が支払いを行うように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設施設への訪問、周辺を散歩、畑、スーパーへの買い物等を行い出来る限り希望に添えるようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者から希望を伺い、出来る限り実現できるように職員とご家族が相談を行い、個別処遇として出かける機会を作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段からご利用者が電話をかけたり、手紙を書く等の支援は行えています。暑中見舞いや年賀状を家族や知人に出して今まで築かれた関係が途切れない様に支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用者にとって大切なお客様がいつでも気軽に訪問して頂けるように、職員はおお客様に対する挨拶や対応に気をつけています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体でも委員会があり、研修等、身体拘束・言葉による拘束をしないケアに取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はドア、エレベーターへの施錠はなく、ご家族やご友人等が自由に入出りできます。職員も拘束による弊害を研修・教育により理解出来ています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通してご利用者の様子や状態を確認・把握し、事故や状態の急変が起こった場合にも早急に気がつけるよう安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員はご利用者の個々の状態や行動を把握し、生活する上で必要な物は出来るだけ片付けないように工夫しています。又、片付ける場合もご利用者と相談した上で行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や職員間の話し合いを通じて知識を学び、また昼夜を通してご利用者の様子を確認、把握し事故や急変に気を付けるよう安全に配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人全体で、救命講習などの訓練を行っています。また、急変や事故発生時に対応できるよう、緊急時マニュアルを備え、研修を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、併施設との合同避難訓練等を行っています。緊急時の対応、機器の使用法等を訓練しています。法人全体で、地域の方々の協力を得られるように働きかけています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の状態や今後起こり得るリスクについて、電話や面会時にご家族に説明を行い、ご利用者が抑圧感のない暮らしを送れるように相談した上で対応策を一緒に考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックやご利用者と関わる中で、日頃と異なる体調の変化や異変の発見に努め、状態の変化や異変があった場合は記録し、主治医に相談しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に薬の管理は職員が行い、薬の配布、きちんと服薬できているかを確認しています。現在、服用している薬、副作用の説明書きを共有し、状態に変化があった場合には記録し、適切に主治医に相談しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として、水分補給をこまめに行い、牛乳やヨーグルトを飲んで頂く等の支援を行っています。個別記録で排便の有無を確認しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者の状態や出来る力に合わせて、口腔ケアの声かけや見守り、介助を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食必ず個別記録に食事量と水分摂取量の記録を行っています。ご利用者と一緒に給食会議を行い、食べたい物を聞いて栄養士と相談した上で提供しています。状態や体重等に変化があれば主治医に相談しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人に感染対策委員会があり、マニュアルに基づいた研修を法人全体・事業所で行っています。また、職員も法人内の診療所にて、健康診断やインフルエンザの予防接種等を受けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の衛生マニュアルに沿って衛生管理を行い、栄養士管理のもと新鮮で安全な食材の使用と管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	お客様が親しみやすく出入りできるように玄関にはご利用者の作品、生活の状況などが分かるようにご利用者の活動・ケアさせて頂いている職員の写真を掲示しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂くために、食堂から見えるベランダには時期に合わせた花を植えたり、テーブルに花瓶を置き花を飾る等、少しでも居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れるソファや畳の間、掘りごたつ等それぞれ思い思いの場所で過ごして頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、馴染みの物や写真等を居室に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温と大きな差がないように気温、湿度を記録し管理しています。朝と夕に換気を行い、新鮮な空気と入れ替えています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来る力や気持ちを大切に、環境整備に努め、安全に配慮して支援しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員はご利用者一人ひとりの力を把握し、できることを職員がやっしまわらないで、うまくいかないところを改善しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには畑があり、ご利用者と一緒に農作業を行い、ベランダにはプランターを置いて、園芸が趣味であるご利用者が主になって花を育てています。夏には稲を作り、成長を楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度は、ご利用者からの希望が多い活動（レクリエーション等）について重点的に取り組みました。毎日の活動の内容を異なった物にするため、1カ月の計画を事前に立てて、行った内容について評価・コメントし処遇会議で反省点・改善点を職員間での話し合いを行っています。また、事業所に併設しているデイサービスとの交流会の回数を以前より増やすことで、慣れ親しんだ地元の方々との交流が図れるように取り組んでいます。保育園での交流会や地区の食事会に参加した際に行っている紙芝居も継続してご利用者が楽しみながら行えています。